

長野県更埴市粟佐遺跡群

五輪堂遺跡 V

——屋代南高校改築に伴う発掘調査報告書——

1988

更埴市教育委員会
更埴市遺跡調査会

序

長野県屋代南高等学校改築に伴う発掘調査も、今年度で4回目を数え、今回で改築工事も一区切りとなりました。今までの調査で70棟を超える竪穴式住居址を始め、多くの遺構遺物が発見され、五輪堂遺跡の重要性が再認識されることとなりました。特に第2次の調査により発見された第2号火葬墓の資料は優品であり、市の指定文化財にもなっています。

五輪堂遺跡は、現在でも多くの人々が生活を営んでいる居住に適した地域であり、人々の長い歴史が土に刻まれた地域でもあります。学校の改築工事に伴う調査は、一応一区切りとなりましたが、市街地に存在する遺跡であり、今後も開発が進むことは確実です。そうした中から先人が残した文化財を後世へ伝えることができるよう、精一杯の努力をすることが現在に生きる私達の責務と考えております。

最後に、調査を無事終了することができましたのは、長野県屋代南高等学校降旗宗雄校長先生、教職員のみなさん、作業に参加された作業員の方々の御協力と御努力の賜であり、厚く御礼申し上げます。

昭和63年3月31日 更埴市教育委員会教育長

更埴市遺跡調査会会長

安藤 敏

例 言 目 次

1、本書は昭和62年4月8日から同年4月15日の間に、長野県屋代南高等学校倉庫等建設に先立って実施された発掘調査報告書である。	序 例 言 目 次
2、調査は佐藤信之が担当し、遺構実測は佐藤、遺物の実測・トレースは前島卓、佐藤が行った。	I 調査の概要…………… 1
3、執筆、編集は佐藤が行った。	II 調査に至る経過及び日誌…………… 2
4、本調査の出土遺物、実測図、写真等は全て更埴市教育委員会に保管されている。	III 遺跡の環境…………… 3
なお、本調査関係の資料には五輪堂南高校地点第5次調査を略し、GRMVと表記した。	IV 遺構と遺物…………… 5
	V おわりに…………… 8
	図 版…………… 9
	写真図版…………… 10



I 調査の概要

- 1 発掘調査委託者 長野県屋代南高等学校
- 2 発掘調査受託者 更埴市遺跡調査会
- 3 発掘調査実施者 更埴市教育委員会・更埴市遺跡調査会
- 4 発掘調査場所及
び土地の所有者 更埴市大字屋代2,104番地
長野県屋代南高等学校
- 5 発掘調査遺跡名 ^{あわき}粟佐遺跡群^{ごりんどう}五輪堂遺跡（市台帳No.18-28-1）
- 6 調査の目的 公共事業 屋代南高等学校倉庫等建設に伴う当該遺跡の記録保存
- 7 調査期間 昭和62年4月8日～同年4月15日
- 8 調査面積 120㎡以上
- 9 調査方法 グリッド調査法
- 10 調査費用 費用総額770,000円（全額委託者負担）
- 11 調査会の構成
 - 会 長 安藤 敏 更埴市教育委員会教育長
 - 理 事 田沢佑一 更埴市議会議員
佐藤穂次 更埴市教育委員会教育委員長
寺沢脩七 更埴市区長会長
相沢正幸 更埴市文化財保護審議会会長
寺沢政男 更埴市役所総務課長
 - 監 事 武井隆義 更埴市社会教育委員会委員長
関 京子 更埴市役所会計課長
 - 幹 事 武井豊茂 更埴市教育委員会社会教育課長
山崎文夫 更埴市教育委員会社会教育係長
矢島宏雄 更埴市教育委員会社会教育主事
佐藤信之 更埴市教育委員会社会教育課主事
- 12 調査団の構成
 - 団 長 安藤 敏
 - 調査担当者 佐藤信之
 - 調査参加者 市川睦雄 牛沢一子 久保啓子 小林芳白 坂口城子 高野貞子
田中富子 松本秋夫 村山 豊
 - 整理参加者 青木美知子 小林昌子 前島 卓
 - 事務局 武井豊茂 山崎文夫 矢島宏雄 佐藤信之 田中啓子 山根洋子

II 調査に至る経過及び日誌

昭和62年3月2日、県高校教育課より昭和62年長野県屋代南高等学校倉庫等建設について文化財保護法による57条の提出があった。市教育委員会では発掘調査の必要を伝えると共に、調査計画書を作成し、県文化課の指導を仰いだ。3月31日、県文化課より発掘調査を実施するよう指導があった。62年度に入り4月1日長野県屋代南高等学校より正式に依頼があり、市教育委員会では急なことであるので、市遺跡調査会に対応することとし、準備を開始した。4月6日、97条による発掘通知を提出し、長野県屋代南高等学校と市遺跡調査会との間に、調査費用770,000円調査面積120㎡以上で発掘調査委託契約が締結された。4月8日より発掘調査が開始され、4月15日6棟の竪穴式住居址と溝等を検出し、無事現場における調査を終了した。

日	誌
4月8日	重機による表土剥ぎ 便所部分より調査開始
4月9日	1号住居址検出、倉庫部分 の精査開始
4月11日	桜満開、渡り廊下部分精査 便所部分実測
4月12日	倉庫部分遺構掘り下げ
4月13日	渡り廊下部分遺構掘り下げ
4月14日	住居址の一部を除き掘り下 げ完了
4月15日	実測、遺物の取り上げ調査 終了 発掘調査日数 7日 調査員 延べ7人 作業員 延べ56.5人



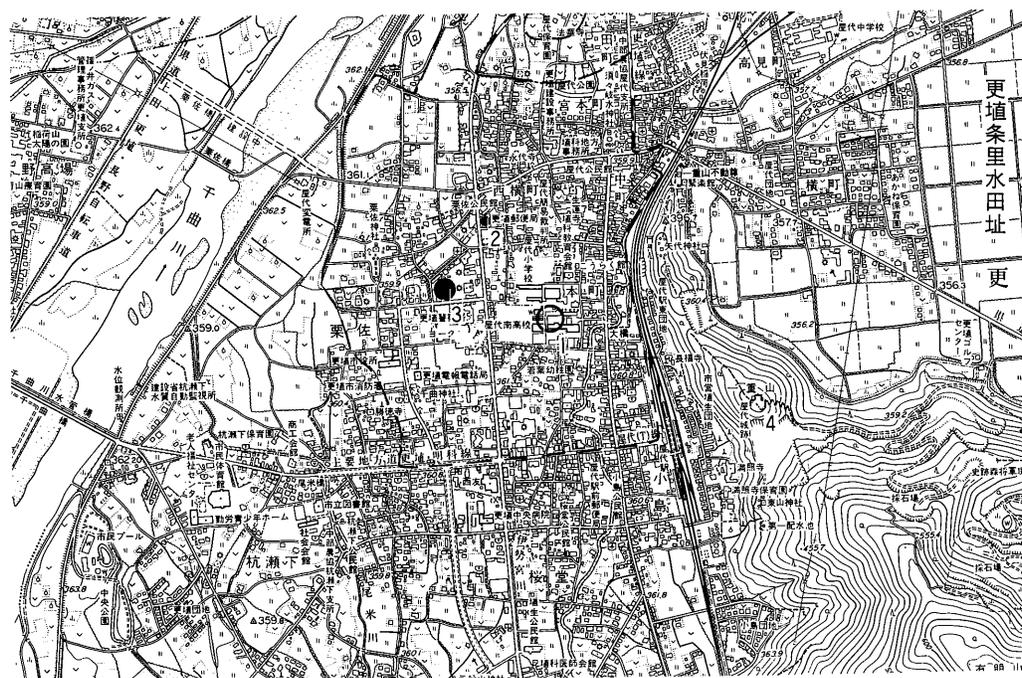
第1図 発掘調査風景

III 遺跡の環境

五輪堂遺跡は、北流する千曲川によって形成された自然堤防上に展開する遺跡であり、広く粟佐遺跡群としてとらえることができる。その東側には北に突き出した一重山があり、山頂には中世に当地を支配した屋代氏の屋代城が作られている。さらに東側は条里的地割の調査が実施された屋代田圃が広がり、南にはこの屋代田圃を見下ろすように、保存整備事業が実施されている森將軍塚古墳が作られている。

粟佐遺跡群は標高360m前後に位置し、東西0.5km、南北1kmに広がる集落遺跡で、15の遺跡が含まれている。これまでに五輪堂遺跡を始め、戸崎遺跡、南沖遺跡の発掘調査が実施され、弥生時代から中世に至る大集落址であることが知られている。

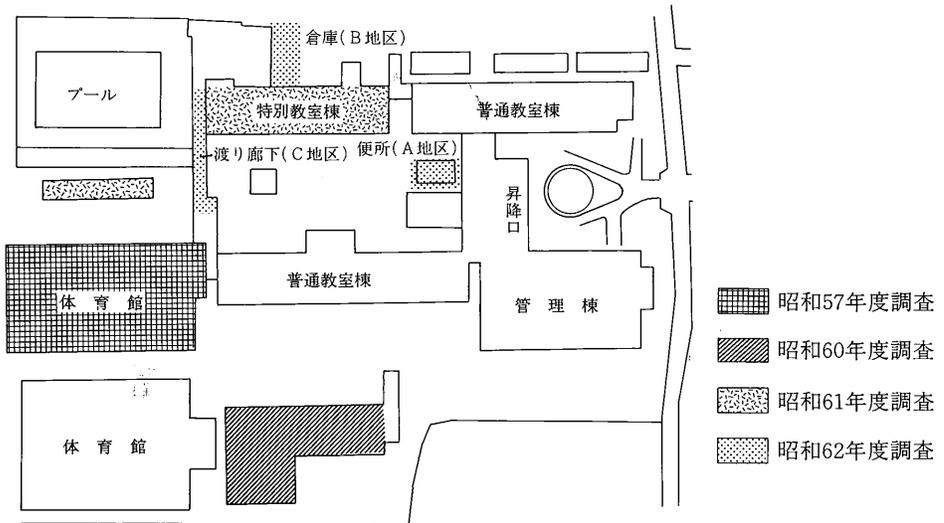
特に五輪堂遺跡は、屋代小学校改築に伴う3次の調査、屋代南高等学校改築に伴う4次の調査により、150棟を超える竪穴式住居址の他、掘立柱建物址、火葬墓、馬の墓、堂址、溝等の多くの遺構が検出され、またこれらに伴って多くの遺物も出土しており、ただならぬ遺跡であることを示している。今回の調査で学校改築に伴う発掘調査は、一応一区切りとなったが、市街地に所在する遺跡であり、現在周辺の再開発事業も進められていることから、今後も環境の変化が予想される地域である。



□□ 粟佐遺跡群 1.五輪堂遺跡調査地点 2.戸崎遺跡 3.南沖遺跡 4.屋代城

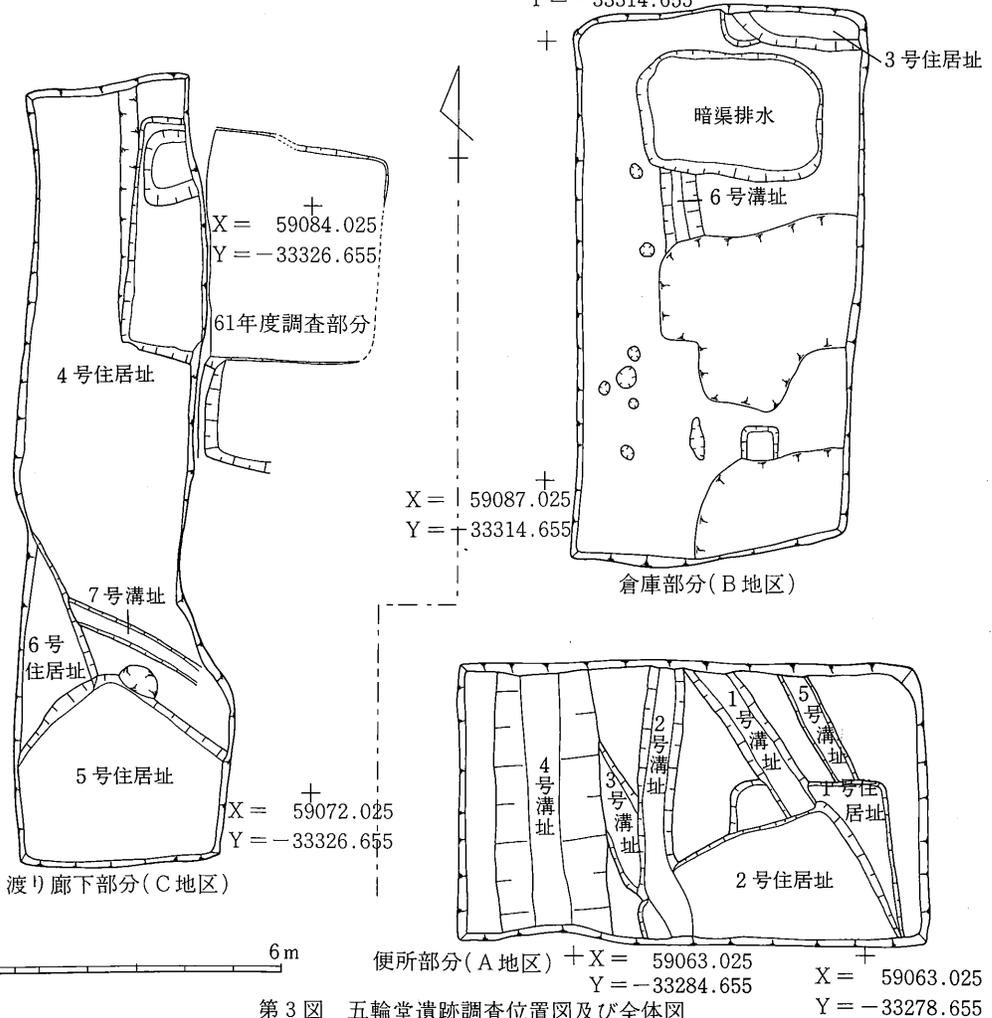
0 400m

第2図 発掘調査位置図



X = 59096.025

Y = -33314.655



第3図 五輪堂遺跡調査位置図及び全体図

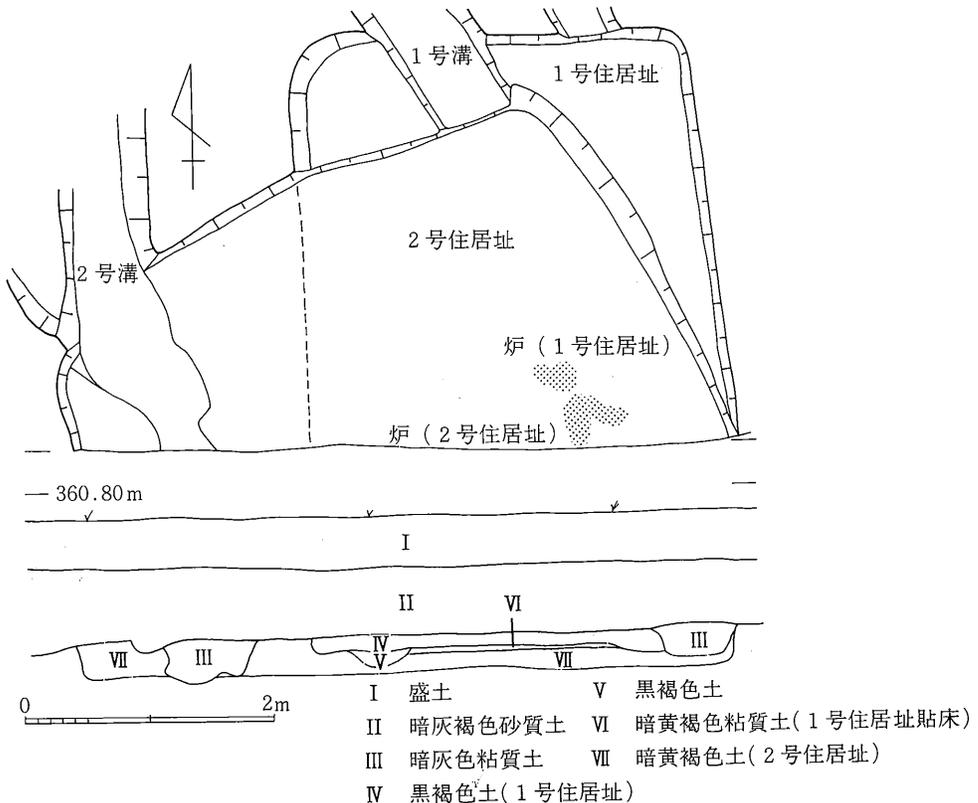
IV 遺構と遺物

今回の調査は130㎡と規模も小さく、また3ヶ所に分かれた地点の調査であったため、6棟の住居址と7本の溝址を検出したがいずれも調査区外へと広がっており、完掘できたものはなかった。

1号住居址 (第4図、図版1・4)

遺構 A地区より検出された住居址で南側は調査区外へと広がっている。2号住居址を切って作られており、また1号溝址に切られているため規模は明確でないが、3.3m×3.5m前後の方形であると思われる。残存壁高は10cmほどで、壁面はほぼ四方位に一致している。床面には顕著な貼床が観察された。炉は中央部から南に寄った部分に検出されたが、他にも小さな焼土の固まりが数ヶ所より検出されている。

遺物 出土遺物は極めて少ない。1は住居址の中央部より一括出土した壺で、球形の胴を持ち、直線的に外開する頸部からやや屈曲を強め口縁端部に至る。口縁部は二重口縁状を呈している。器面は細かなハケで整えられている。2は「くの字」状にくびれた頸部から、短かく外反して口縁部となる甕である。



第4図 1号・2号住居址

2号住居址 (第4図、図版1・4)

遺構 A地区の1号住居址下部より検出された遺構で、やはり南側は調査区外へと続いている。そのため規模は不明であるが、調査部分から1辺が4.5mほどのやや胴の張った住居址が想定できる。床面、壁共に顕著であり、残存壁高は最大30cmを計ることができた。炉は、東壁のほぼ中央に当たると考えられる部分から1mほど内側より弱い焼土が検出されており、この部分と考えられる。

遺物 出土遺物は極めて少なく、図化できたものは1点だけであった。壺の頸部で球形を示すと思われる胴部から直線的に外開した頸部は段を有し、口縁部に至るものと思われる。

3号住居址

B地区より検出された遺構で、大半が調査区外に存在するため、詳細は不明である。

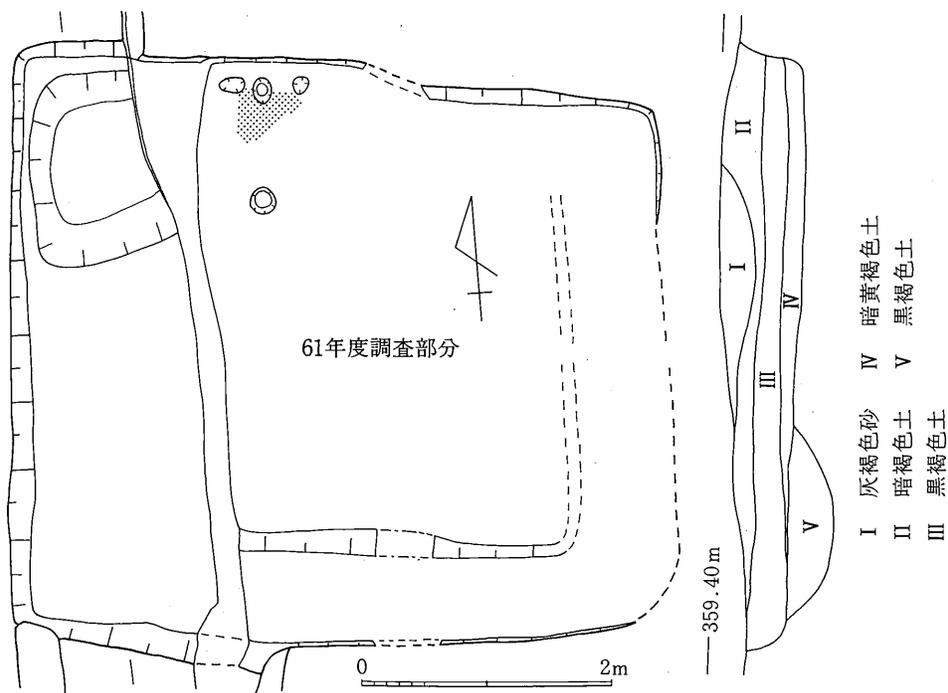


4号住居址 (第5・6図、図版4)

遺構 C地区より検出された住居址で、東側は61年度に調査された33号住居址となる。規模は両年度の調査結果から、5m×4.7mの不整形の住居址で、主軸はほぼ南北にある。カマドは北壁のやや



第5図 4号住居址出土遺物



第6図 4号住居址

西側に作られており、北西隅には住居址に付属すると思われる土壌が作られている。この土壌には埋めた痕跡が見られることから、後には使用されなかったと思われる。壁、床とも顕著であったが、61年度の調査で切り合っていた住居址との関係は明らかにならなかった。

遺物 出土遺物は少ない。1は内面黒色処理された坏である。2も内面黒色処理された皿であり、底部には糸切り痕を残しており、高台は付けられていない。3は口径24.5cmほどの甕で最大径は口縁部にある。

5号住居址 (第7図)

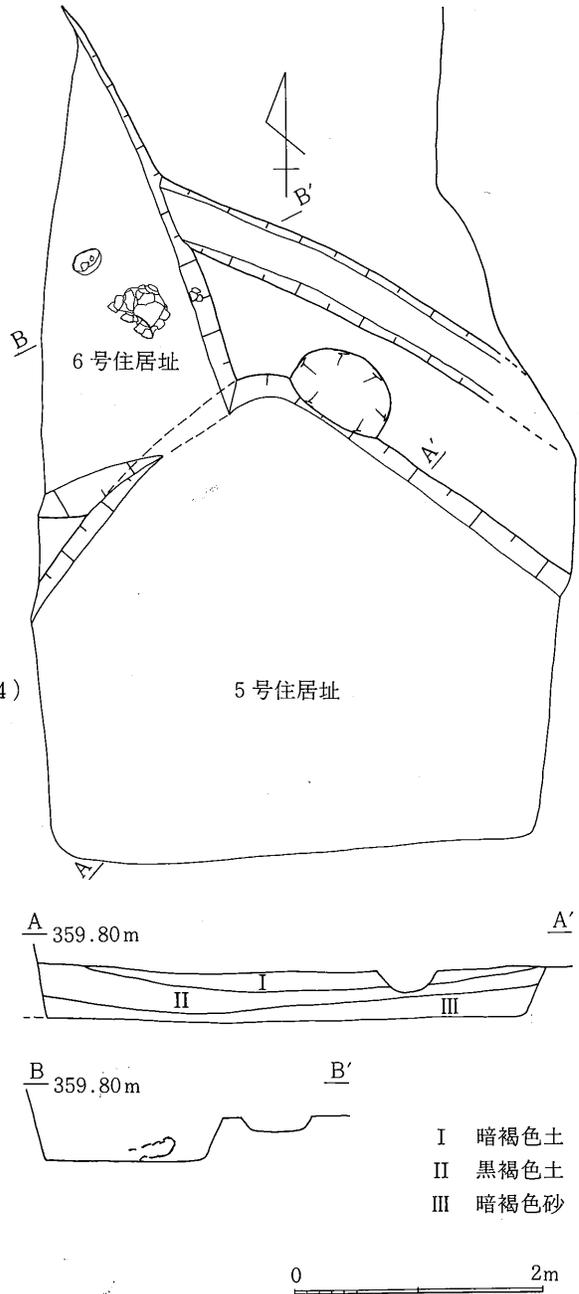
遺構 C地区南隅より検出された住居址で、北隅を除きいずれも調査区外へ広がっている。したがって規模は不明であるが、壁はN-40°-Wの方向に作られており、壁高は最大43cmを計る。壁、床共に顕著であったが、他に住居址に付属するものは、検出できなかった。

遺物 小片が僅かに出土しただけで、時代を決定できるような遺物の出土はなかった。

6号住居址 (第7図、図版1・3・4)

遺構 C地区南より5号住居址に切られて検出された住居址である。西側が調査区外へと広がっているため規模は不明であるが、壁はN-30°-Wの方向に作られている。壁高は最大38cmほどを計れる。

遺物 1は坏で平底となる底部より弯曲しながら立ち上がりそのまま口縁部となる。外面は細かなハケで整えられている。2は坏あるいは鉢と考えられ、直線的に外開する口縁部は厚く作られている。3~5は大形の甕である。3は「くの字」状を呈する頸部より外反して立ち上がり口縁部となる。



第7図 5号・6号住居址

5は完形で、最大径を胴部上半に持ち、良くくびれた頸部から外反気味に立ち上がった口縁部はそのまま端部へと至る。外面はていねいなハケを施した後、胴下半部のみ、荒いミガキともいえるようなナデを施している。

V おわりに

屋代南高校校舎改築に伴う一連の調査も、5次となった今回で一応一区切りとなり、五輪堂遺跡の調査面積は屋代小学校分を含め4,500㎡以上となっている。この間に検出された遺構遺物は膨大な量であり、住居址は166棟に上る。明らかに弥生時代と判断できる住居址は検出されていないが、出土遺物中に箱清水式土器が見られることから、五輪堂遺跡の集落址としての成立は弥生時代後期と考えられる。

古墳時代の住居址は34棟検出されており、箱清水式土器の影響を強く残す一群の土器を出土する住居址から、古墳時代を通しての住居址が構築されている。これらの住居址の内、初期のものは遺跡内に散在しているが、しだいに遺跡の北東、屋代小学校周辺に集中する傾向が見られるようになる。また古墳時代初期の住居址は、その出土遺物がバラエティーに富んでおり、今後詳細な分析を進めれば、弥生時代から古墳時代への移行期究明の大きな手掛りになるものと思われる。

奈良平安時代の住居址は130棟を超えており、特に集中する地域を示さず、調査区内全域に広がっていることから考えれば、遺跡内にはさらに同時代の住居址数100棟が存在することが考えられ、屋代自然堤防上と共に屋代郷の有力地と考えることができる。これらの住居址中にはある程度の間隔をもって掘立柱建物址が見られる。このようなあり方は、長野市の塩崎遺跡群、更埴市の馬口遺跡等にみられる掘立柱建物址のあり方と同様であり、掘立柱建物址の性格を考える上で重要な遺跡といえる。

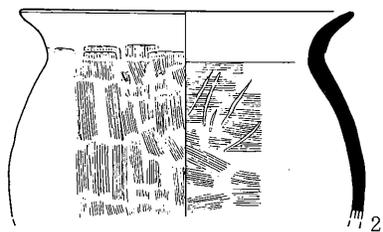
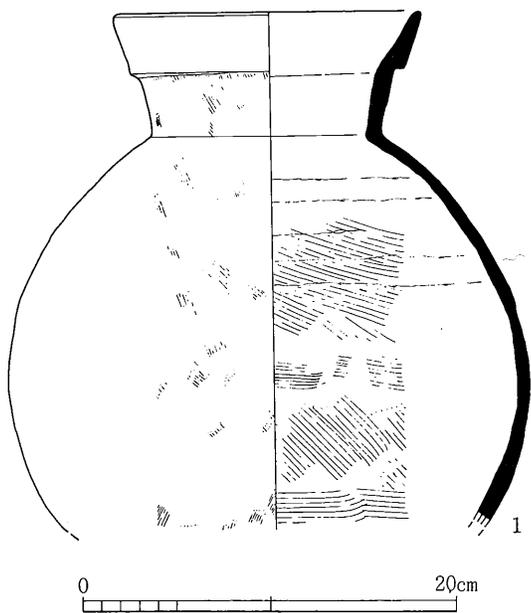
中世のものとしては昭和58年度に調査された堂址がある。時期を明らかにできる遺物の出土はなく、明確な時期は断定できないが遺構の切り合い等から12世紀をさかのぼらないと考えられる。五輪堂という字名との関係も含め、当地が中世に果たした役割を考えるうえで重要な遺構といえよう。

最後に、調査に全面的に御協力くださった長野県屋代南高等学校の教職員のみなさん、発掘作業に参加いただいた皆様に心から御礼を申し上げますと共に、今後の埋蔵文化財保護への御協力をお願いいたします。

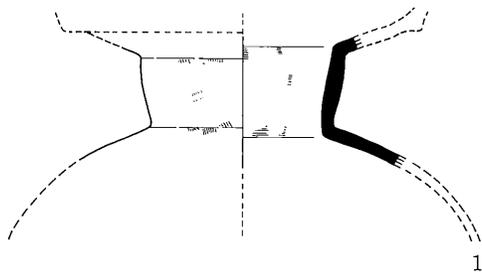
文献

- 1 「五輪堂遺跡」 更埴市教育委員会 1981
- 2 「五輪堂遺跡II」 更埴市教育委員会 1982
- 3 「五輪堂遺跡III」 更埴市教育委員会 1986
- 4 「五輪堂遺跡IV」 更埴市教育委員会 1987

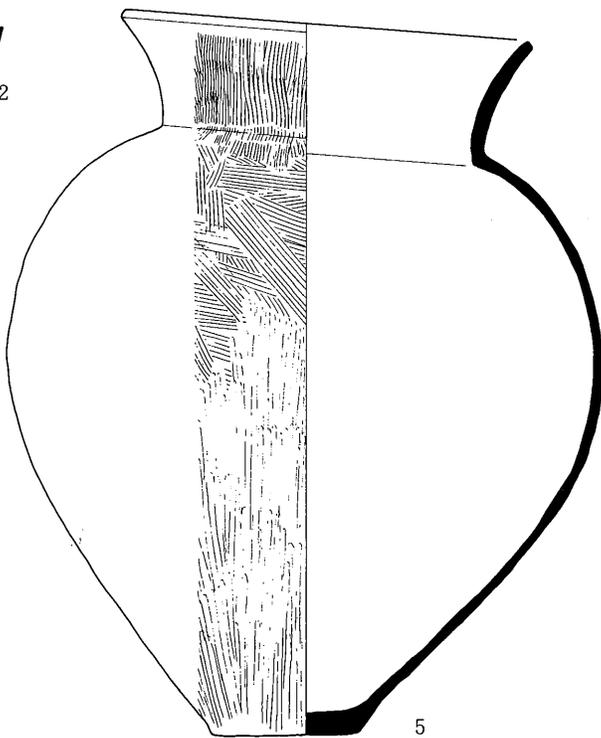
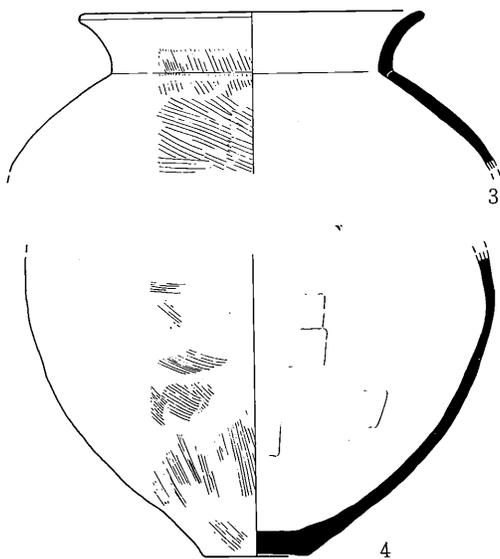
1号住居址



2号住居址



6号住居址

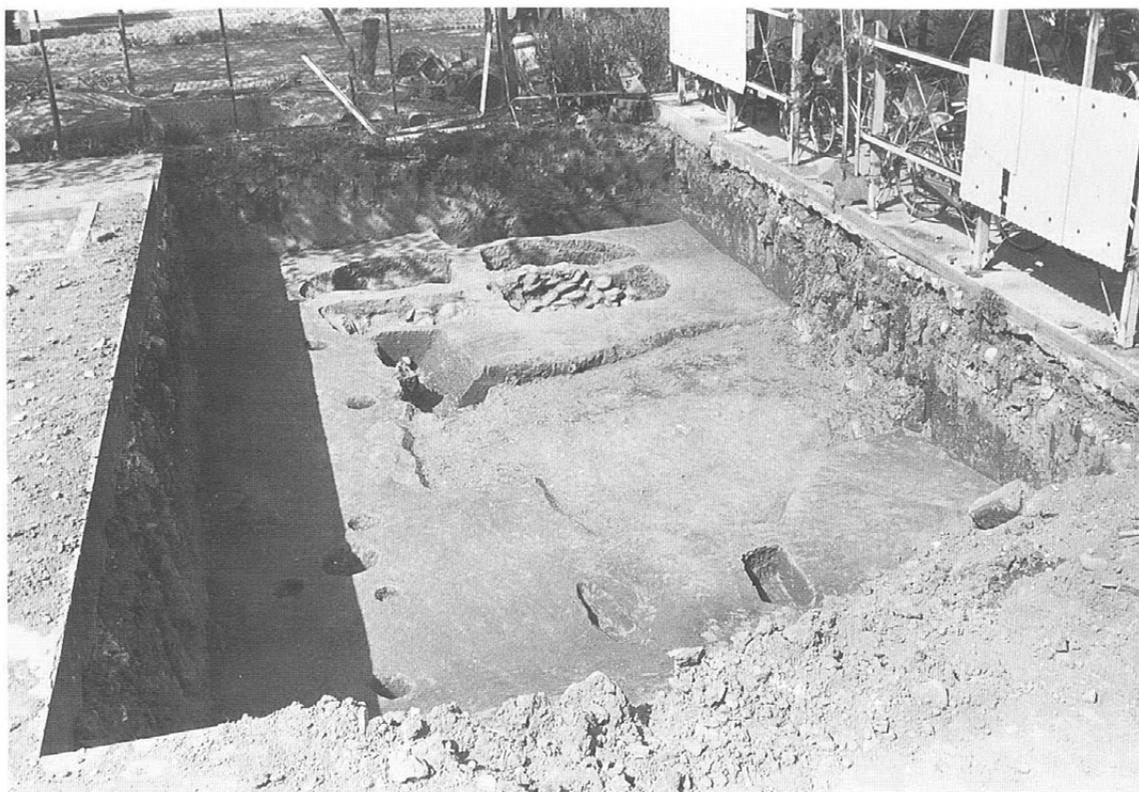




A地区全景



1号住居址遺物出土狀態



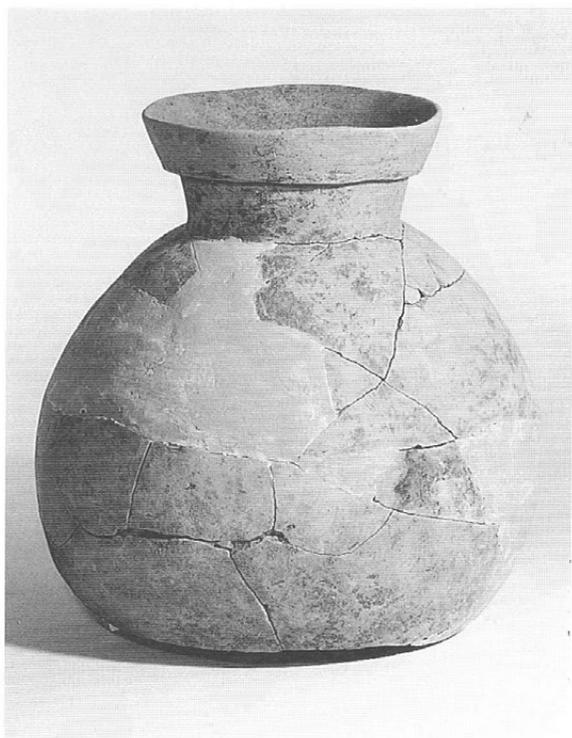
B地区全景



C地区全景



6号住居址遺物出土狀態



1号住居址



2号住居址

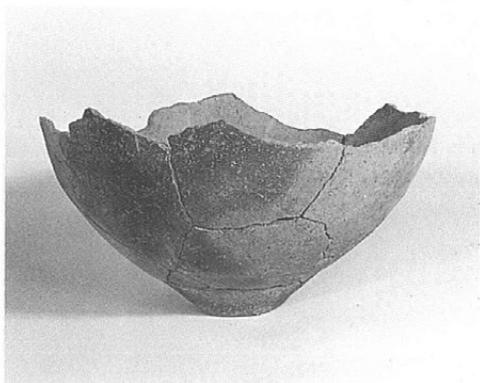


4号住居址

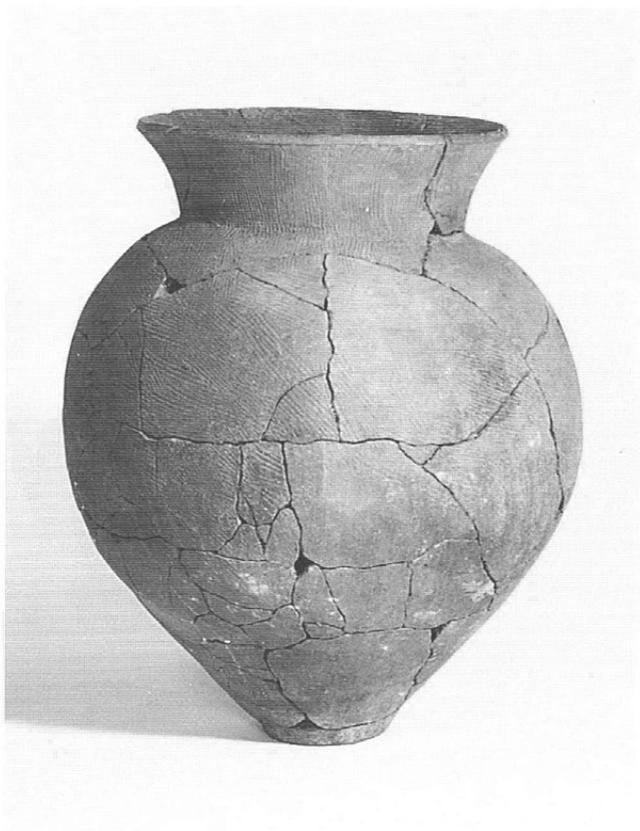
(1/2)



(1/2)



6号住居址



(他は1/4)

五輪堂遺跡 V 屋代南高校改築に伴う発掘調査報告書

発行日 昭和63年 3月31日

編集 更埴市遺跡調査会

発行 更埴市教育委員会

〒387 長野県更埴市大字杭瀬下762-2番地

TEL (0262) 73-2791

印刷 ほおずき書籍株式会社

〒380 長野市中越293

TEL (0262) 44-0235
